

仮設焼却炉確認運転の進め方

●本格的な焼却処理運転は、施設の確認運転を実施し、その結果を確認してから行います。

(1) 製作工場での確認運転

焼却施設の製作工場(九州地方)において、通常の(放射能汚染の無い)バーク、木くず、剪定枝、稲わら、鶏糞等の焼却試験を行い、各種排ガスを測定しました。良好な結果が得られました。(排ガス中のダイオキシン類: OngTEQ/Nm3)

(2) 現地(鮫川村)での確認運転

施設を現地に設置後、以下の手順で確認運転を行います。

① 無負荷調整運転
(7日間)

: 空焚き(焼却はせずにバーナーを焚く)にて、各装置・計器が正常に作動することを確認します。

② 負荷確認運転
(3日間)

: まず、低線量の牧草を低負荷で焼却します。処理量と処理時間を段階的に増やしていくことで、焼却状況(炉内等各部温度、ばいじん濃度等)を確認しながら、設備の連動運転の調整等を進めます。3日目は、低線量の牧草に稲わらを混ぜて、ほぼ定格運転を行い、排ガスの放射性セシウム濃度等の各種測定を行います。

③ 確認運転結果の報告・公表

: 負荷確認運転終了後、排ガスの放射性セシウム濃度等の分析結果が得られ次第、確認運転の結果を取りまとめて村及び監視委員会に報告・公表した上で、本格運転に進みます。

日 数		1日目 (7/4)	2日目 (7/5)	3日目 (7/8)	4日目 (7/9)	5日目 (7/10)	6日目 (7/11)	7日目 (7/12)	8日目 (7/16)	9日目 (7/17)	10日目 (7/18)
無負荷調整運転		※空焚きによる調整運転									
処理準備作業	農林業系副産物の搬入作業										
	農林業系副産物の破碎作業										
負荷確認運転									[1日目] (0.2t/日)	[2日目] (0.8t/日)	[3日目] (1.5t/日)
空間線量の測定											
放射性セシウム濃度の測定											

(注) 土曜日・日曜日・祝日は確認運転を行いません。

確認運転の具体的内容、確認項目

① 無負荷調整運転 (7日間)

- ・ 空焚き(焼却はせずにバーナーを焚く)を行い、各装置・計器が正常に作動することを確認します。
- ・ 測定項目：温度、圧力等の運転データと各機器の運転状況を確認します。
- ・ 焼却開始前の放射線量値(バックグラウンド)として、焼却対象物(牧草)の施設への搬入前に、施設内及び周辺の空間線量(施設内9ヶ所、施設周辺8か所)を測定します。
(以降、確認運転期間を通じて測定を継続します。)

② 負荷確認運転 (3日間)

- ・ 1日目、2日目は、低線量(100Bq/kg前後)の牧草を低負荷で焼却します。処理量と処理時間を段階的に増やしていくことで、焼却状況(炉内等各部温度、ばいじん濃度等)を確認しながら、設備の連動運転の調整等を進めます。
- ・ 3日目は、低線量の牧草に稲わら(4000~6000Bq/kg程度)を10%程度混ぜて、ほぼ定格運転を行います。

【1日目】100kg/時間×2時間/日(=0.2t/日)

【2日目】150kg/時間×5~6時間/日(=0.8t/日)

【3日目】190kg/時間×7~8時間/日(=1.5t/日)

- ・ 測定項目：温度、圧力、焼却量等の運転データと各機器の運転状況を確認します。
3日目は、下記も測定・サンプリング/分析します。
焼却対象物の重量・比重、放射線量、放射性Cs濃度、水分、灰分、発熱量
焼却灰・飛灰の重量・比重、放射線量、放射性Cs濃度、重金属含有量、
ダイオキシン類濃度、溶出量(放射性Cs、重金属、ダイオキシン類)
排ガスの放射性Cs濃度、ダイオキシン類濃度、ばいじん濃度、NO_x、SO_x、HC₁
- ・ 確認事項：本格焼却運転を安全に支障なく行えることの確認を行います。
排ガス中の放射性セシウムが管理目標値以下に除去されていること
ばいじん濃度の常時監視により、放射性セシウムの管理目標値の監視ができてい
こと等を確認します。

③ 確認運転結果の 報告・公表

- ・ 確認運転期間中の空間線量率は、毎日測定データを村に報告・公表します。
- ・ 負荷確認運転終了後、排ガスの放射性Cs濃度等の分析結果が得られ次第、確認運転の結果を取りまとめて村及び監視委員会に報告・公表した上で、本格運転に進みます。